

(仮訳)

カザフスタン共和国  
ヌルスルタン・ナザルバエフ大統領の  
国会演説要旨

2016年11月8日、東京

尊敬する大島理森衆議院議長殿、  
伊達忠一参議院議長殿、  
国会議員の皆様、  
御列席の皆様、

まず、日本の国会での演説という名誉をいただいたことに感謝します。私共の代表団からのお礼もお伝え申し上げます。

貴国の立法府である国会は、民主主義の深い歴史的伝統をもち、日本の民主主義の順調な発展に大きな貢献をしています。

今日、日本は経済的に世界3位の地位にあり、世界で主導的な役割を果たしています。

これを促進しているのは、日本国民の勤勉さと常に向上を志向する性格だと思えます。

日本の哲学「カイゼン」は、高い水準の管理や技術をもたらしただけでなく、全人類的価値観としてしっかりと根をおろしています。

日本国民のものの考え方は、カザフスタン人の世界観と相通じるものがあります。

両国の国民の味わった共通の困難と悲劇的な運命が、私達を結び付けています。

カザフスタンと日本は、大量殺戮兵器の破壊的な力を身をもって体験しました。

25年前のセミパラチンスク核実験場の閉鎖は、カザフスタンの独立がもたらした歴史的な出来事です。

40年以上にわたり絶え間なく行われた核実験は、大地や人々の健康に大きな被害を及ぼしました。

456回もの原爆・水爆の実験が行われ、そのうち116回は、大気中での

核実験でした。この実験の脅威は、広島・長崎に投下された原子爆弾の2500倍にも及びました。

放射能により、30万平方キロメートル以上の土地が汚染され、そこには、およそ150万人の人が住んでいました。

今日、既に3世代の人々、またこれから何世代にもわたり、カザフスタン国民は、破滅的な核実験の影響に苦しんでいかななくてはならないのです。女性は、子供達の将来に大変心を痛めております。

カザフスタンは、核実験場の閉鎖を決断し、世界に貢献しました。それだけではなく、私たちは、みずからすすんで、世界第4位だった核兵器・ミサイルの軍事力を放棄しました。

カザフスタンは、110基以上の大陸間弾道ミサイルを保有し、それらのミサイルには、1200発の核弾頭が装備されていました。

これを放棄したことは、我が国の世界平和への大きな貢献となりました。

カザフスタンは、「中央アジア非核兵器地帯」の創設を推進してきました。

2015年8月、IAEA（国際原子力機関）との間で、低濃縮ウランを備蓄する施設「LEUバンク」をカザフスタンに置く協定に調印しました。

この措置は、原子力平和利用におけるセキュリティー確保に寄与するものです。

また、アルマトィで、イランの核開発プログラムに関する「包括的共同行動計画」策定のための会合を2回開催しました。

計画の実施についても、カザフスタンは実質的な支援をしています。イランから低濃縮ウランを運び出す代償として、60トンの天然ウランを提供しました。これにより、イランは国内での濃縮を止めることができました。

我が国は、北朝鮮の核問題についても、六か国協議を通じた早期解決を呼びかけています。

私達は、グローバルな反核運動を繰り広げていくことが重要だと考えます。

私の提案している「ATOM」プロジェクト、「核実験廃止は私たちの使命」というフレーズの頭文字をとったプロジェクト、はこれを目的とするもので、日本の友人の皆様からも御支持をいただけますよう呼びかけます。

2015年12月7日、国連総会は、カザフスタンのイニシアチブで、核兵器のない世界の構築を推進する決議を採択しました。

日本は、カザフスタンの提案した、8月29日を「核実験廃絶国際行動の日」とする国連決議案の共同提案国のひとつになりました。8月29日は、私たちがセミパラチンスク核実験所を閉鎖した日に当たります。

2015年9月29日、ニューヨークでの第9回包括的核実験禁止条約(CTBT)発効促進閣僚会議で、カザフスタンと日本は共同議長国(共同調整国)に就任しました。

今日までに、安倍総理大臣と私は、CTBT早期発効に向けた2つの重要な政治的声明を採択しています。

今年3月、ワシントンで行われた核セキュリティー・サミットで、私は「マニフェスト：世界。21世紀」と題した文書を発表しました。

その中で、戦争や紛争のない世界を実現するにはどうしたらいいのか、ということについて、自分の考えを述べました。

また、私は、「核兵器のない世界・グローバルな安全」国際賞を創設しました。

それは、世界のリーダーや政治家の中で諸国民の平和共存に貢献する活動をした人に感謝して表彰するものです。毎年8月29日に特別委員会による表彰が行われます。

明日は、広島を訪問することになっています。広島と長崎の原爆犠牲者に祈りを捧げます。

世界の指導者に、核兵器が使用された場所、広島・長崎を訪問してほしいという日本の呼びかけを支持します。

私は広島から世界に向けて、核兵器を無くさなければならないという呼びかけを発したいと思います。現在、核大国は核兵器を保有し、その能力を高め、実験を続けています。作らない、実験しない、拡散しないということと呼びかけたいと思います。世界のリーダーは広島と長崎を訪問しなければならず、特に核大国のリーダーには訪問して頂きたいと思います。

戦後たくさんの日本人が、カザフスタンで抑留生活を送りました。ソビエト時代のカザフスタンでの過酷な生活の中で示された日本人抑留者の不屈の精神は、いまもなお、私たちの記憶に残っています。

15歳のアヒコテツロウさんは抑留者としてソビエト時代に人民の敵として10年の刑を宣告されましたが、本当は、この若者には何の罪もありませんでした。5万の抑留者がカザフスタンで抑留生活を送りました。アヒコさんは、カザフスタンで24歳の時に結婚し、スターリンの収容所で過酷な生活を送り、50年後に日本に帰国し、近親者と会うことができました。そして、その後、祖国と思っているカザフスタンに子供と共に戻りました。現在86歳になられたアヒコさんは妻のレーナさんとともにカラカンドで子供達を育てています。カザフスタン人の優しさがこの方の命を救ったのだと思います。

皆様、

核兵器を使おうと思う人々に、既に冷戦を終わったこと、我々は21世紀を生きていることを訴えたいと思います。

21世紀の最も深刻な問題のひとつは、核テロリズムの脅威です。また、不法な核物質や放射性物質の取引です。

これまでに例を見ないほどの核大国どうしの信頼の欠如が、核兵器使用を防ぐ保障を低下させています。

すべての世界のリーダーが政治的な強い意志をもってこのネガティブな傾向をおしとどめることが、今、かつてないほど求められているのです。

私達は、アジア太平洋地域の連携強化にむけ、日本がさまざまな提案をしていることを承知しています。

日本の立場は、カザフスタンの立場に近く、私たちにとってわかりやすいものです。

25年前、国連総会での演説の中で、私は「アジア相互協力信頼醸成措置会議(CICA)」の設立を呼びかけました。

この組織には、現在、アジア大陸の面積の90%以上を占める26か国が加盟しています。

この組織を「アジア安全保障・開発機構」に改編すべき時がきていると思います。

来年1月から、カザフスタンは、中央アジアの国として初めて、国連安全保障理事会非常任理事国に就任し、2017年から2018年の期間、その責務を果たしていくこととなります。

2017年は、カザフスタンと日本の非常任理事国の任期がかさなり、両国の協力にさらなる可能性が開けます。

我が国は、現在の世界秩序にかかわる主要な問題の解決や平和と安全の強化にしっかりと貢献していく所存です。

カザフスタンは、日本の国連安全保障理事会常任理事国入りを支持するとともに、世界の平和と安全の維持、発展への日本の貢献を支持します。

皆様、

私達は、安倍総理大臣が昨年10月カザフスタンの首都で表明された中央アジアに対する新たな政策の実現は大きな可能性を開くものだと考えます。

この構想は、平和で先進的なユーラシアにおける共存という私たちの考えと調和しています。

古代、カザフスタンと中央アジアの地をとおる通商の道「シルクロード」がありました。

この地は、有名な平山郁夫画伯の絵に描かれ、つい最近亡くなられた優れた学者、加藤九祚先生の仕事の間でもありました。

シルクロードは、通商の道であっただけでなく、科学や文化における新しい息吹を伝える道でもありました。

現在は、ヨーロッパとアジアをつなぐ主要な道がカザフスタンで交差しています。

主導的な国々によって、さまざまなプロジェクトがすすめられています。

平和で安定し、繁栄した、経済力あるユーラシアの建設は、みんなに利益をもたらします。

それは、世界の紛争の潜在的可能性を低減し、グローバルな経済発展や成長に強力な波及効果をもたらします。

中国の連雲港の港では、カザフスタンのターミナルの建設が終わりました。

黄海、東シナ海をとおり、日本の九州に最短距離で至るルートとなります。

また、中国や東南アジアからヨーロッパへ、最短距離でつなぐルートがカザフスタンをとっています。

中国との国境のホルゴスは、ドライポートとして、カスピ海の港アクタウへの鉄道輸送の拠点となり、このルートはその後、まっすぐヨーロッパに至ります。

もう一つの鉄道輸送ルートは、南に向かうもので、トルクメニスタンとイランを通り、ペルシャ湾にいたります。

日本にも利用頂ける輸送路になると思います。

私たちは、日本がこの地で質の高いインフラを推進していることを承知しており、それを高く評価し、支持しております。それは、「拡大ヨーロッパ空間」形成を促進するものだと思います。

皆様、

20世紀から21世紀をまたぐ25年間は、大きな歴史的転換期となりました。

世界の様相は大きく変わりました。

世界の政治地図には、新しい独立国が出現しました。

1991年にいったいだれが、カザフスタンが独立国としてりっぱにやっっていけると思ったのでしょうか。

当時、私達の国を、世界地図で示すことのできる人は、少なかったのです。

ソ連崩壊後のカザフスタンは、体制も整わず、その経済は競争力がなく、国の管理も非効率的なものでした。

30の民族、15の宗教が共存するカザフスタンは、国民の生活水準もきわめて低く、40%が生活困窮者、インフレ率は2000%にもなっていました。

あらたな国家の建設、計画・指令型経済から市場経済への移行は、事実上ゼロからスタートしました。また、独裁主義から民族主義、全体主義から民主主義への移行もこの時期に行われました。

しかし、我が国は、他の旧ソ連諸国よりも迅速かつ成功裏に大規模な変革を成し遂げることができました。

独立後のカザフスタンの改革の重要な成果は、国民福祉の大幅な改善です。

ドル換算での **GDP** は20倍、平均賃金は23倍にもなりました。

1990年代には3人にひとりが生活困窮者であったのに対し、現在の貧困レベルはおよそ25%です。

国民の平均寿命は、72歳までのびました。これも大きな変革の成果です。

産業政策の実施により、カザフスタンでは、28の新たな製造業が生み出され、400以上の新しい製品がつくられるようになり、何十万もの新規雇用が創出されました。外国からの投資増大もこのような成果を裏付けるものです

このことは、カザフスタンのすぐれた投資環境を物語っています。

世界銀行の”**Doing Business-2017**”では、カザフスタンは190か国中35位まで順位をあげ、日本のすぐあととなっています。

私達は、「5つの重要な制度改革」に着手しており、国家計画「100の具体的なステップ」が採択されております。私達は石油ガスの埋蔵量で10指に入り、ウラン採掘では世界2位であり、この他、クロム、銅、鉛など、メンデレーエフの周期表にあるあらゆる化学物質を埋蔵しております。これまでこのような資源を活用し、国家基金を作りました。この基金は1000億ドルの外貨を保有しており、これを再生エネルギーの開発に使っていきたいと考えています。現在、2回目の5カ年計画を実施しており、770の新しい企業の創設、自動車道路、鉄道、港湾などのインフラを整備しているところです。

この5つの重要な制度改革の下で100の具体的なステップを採択するという国家計画は、21世紀のカザフスタンの建設をめざすもので、よりバランスのとれた政治システム、発展した市民社会のための制度づくり、経済知識の向上を目標としています。

これを実現することによって、我が国は、世界のネガティブな傾向に打ち勝ち、世界で最も発展した30の国にはいることをめざしています。

この野心的な目標達成のため、日本との協力を進めていきたいと思えます。

今日は日本のビジネス界の皆様と懇談し、昨日は安倍総理との間で信頼感に満ちた首脳会談を行いました。貿易・経済のみならず、その他分野でも協力を推進することで合意しました。ビジネス環境をみると、日本とカザフスタンは相互補完的です。我々は資源を、日本は高い技術を持っております。

日本からの投資は非常に大きく、これまで25年間の両国の関係のなかで、日本からカザフスタンへの投資は、直接投資が累計100億ドル、政府開発援助(ODA)が12億ドルとなっています。

カザフスタンは、中央アジアにおける日本の最大の貿易経済パートナーです。

昨年の貿易取引高は、14億ドルでした。

私達は、日本とのハイテク・知識集約分野での互恵的協力を望んでおり、日本からの先端技術やノウハウの移転を望んでいます。

日本の会社に、カザフスタンの産業・イノベーション発展プログラムや大規模民営化に是非御参加いただきたいと思えます。

戦略的パートナーシップと相互理解の精神は、両国関係を新しいレベルに引き上げるのに役立つと確信しております。安倍総理と署名した共同声明は、二国間関係を戦略的パートナーシップに拡大していくことを謳っております。これを現実にすることが我々の課題です。

御列席の国会議員の皆様、

今回の私の日本公式訪問は、大変象徴的です。今年は、カザフスタンの独立25周年、来年は日本との外交関係樹立25周年を迎える大切な時期にあたります。



この機会を利用し、日本政府、国会、国民の皆様、カザフスタンの独立間もない時期に多大なご支援を賜りましたことに深い感謝の意を表明させていただきたいと思ひます。日本は、カザフスタンの独立を最初に認めてくれた国の一つです。国会議員の皆様にも両国関係強化に協力頂きたいと思ひます。2017年には、アスタナ万博2017が開催されますので、皆様にも是非お越し頂きたいと思ひます。

最後に、日本の有名な教育者で「武士道(Bushido: The Soul of Japan)」の著者である新渡戸稲造の「私は、太平洋の架け橋となりたい」ということばを引用したいと思ひます。

このことばは、まさに私自身の気持ちを表しているからです。

効果的な協力と創造的な信頼の醸成は、アジアの人々を近づける鍵となります。

日本政府は国民にとって必要な野心的な改革を進めておられると承知しております。これは大変印象深いものであります。

国会議員の皆様のご健康・ご多幸と、日本の更なる発展をお祈り申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。